

「八幡浜みなと」民設民営手法の一部導入による 道の駅・みなとオアシスの整備運営(八幡浜市)

【取組概要】

道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」の整備運営事業の実施にあたり、商業施設の一部について民設民営手法を導入。

人口 37,077人

担当部署 総務企画部 政策推進課

【取組みの効果】

- ①民間事業者にとって最適な施設を整備することができる。
- ②民間のノウハウと機動力を生かした事業運営がなされており、地域資源を生かし、かつ顧客ニーズにマッチした商品開発、メニュー開発が活発に行われている。
- ③市の財政負担を軽減することができた。また、地代収入、固定資産税(建物・設備)を安定的に得ることができる。



八幡浜みなと内の産直・物販・飲食施設
「アゴラマルシェ」の外観



「アゴラマルシェ」産直・物販コーナー

【他団体へのアドバイス】

複数の設置運営間の連携がうまくいけばメリットは大きいですが、一方でうまくいかなければ弊害が生まれる危険性もはらんでいる。道の駅やみなとオアシスには、商業施設としての機能だけでなく、情報提供、防災機能など公的な役割も広く担っているため、これらを十分考慮した上で手法を検討すべき。

【創意・工夫した点】

- ①市の活性化に資する施設運営をしてもらうため、募集時に具体的な要求・期待事項を定めるとともに、採用者と基本協定を締結。
- ②一元的な管理運営ができない対応策として、施設運営者による合同運営会議を定例的に開催。当会議には、市の関係課も参加し、情報共有と連携に努めている。